## 指標2

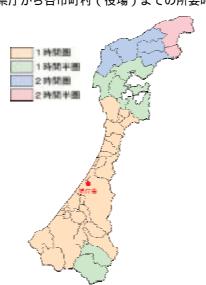
# 高速ネットワーク (いしかわ広域交流幹線軸)確保率

## 現状と課題

#### 南北に細長く、半島を有する県土

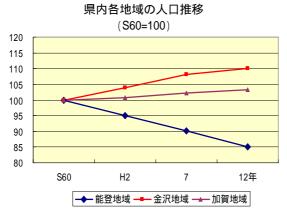
日本海側最大の半島である能登地域では、高速交通インフラの整備が十分でなく、県都金沢へ2時間以上かかる市町村も存在する。また、高速道路インターチェンジへ1時間で到達できない市町村は県内で15(能登地域はこのうち14)市町村にのぼる。

県庁から各市町村(役場)までの所要時間圏



### 定住人口から交流人口の増大へ

能登地域は、著しい人口減少に直面しており、地域活力の増進に向け、交流人口の増大が求められている。



人口資料:国勢調査各年版

#### 高速道路ICに1時間で到達できる市町村



## 大規模災害時の幹線道路のリダン ダンシーの確保

阪神淡路大震災を教訓として、救・支援物資を 搬送する幹線道路のリダンダンシー(代替道路) の確保が求められている。



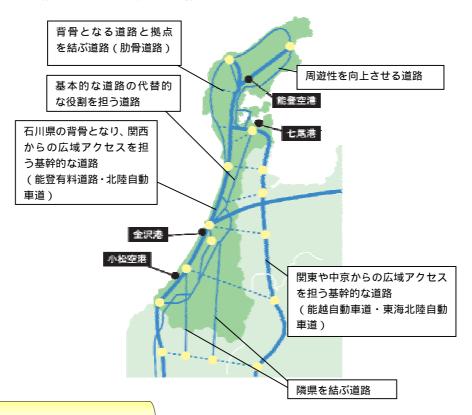
阪神淡路大震災の状況

### 取組みの方向性

南北幹線の複線化および東西幹線の整備により、2本のラダー(はしご)状道路ネットワークを形成する県土ダブルラダー構想の実現を図り、広域交流、地域連携の交通基盤づくりと観光面での周遊性の向上、災害発生時の代替性の確保を目指します。

#### **県土ダブルラダー構想**(いしかわ広域交流幹線軸)

南北幹線の複線化および東西幹線の整備により、2本のラダー(梯子)状道路ネットワークを形成する構想



## 取組みの成果指標

高速ネットワークの確保を示す指標として、ダブルラダー指定路線の整備率を採用 します。

高速ネットワーク確保率 = <u>ダブルラダー指定路線の整備済み延長</u> ダブルラダー指定路線の総延長

\*対象道路:ダブルラダー指定路線(高速道路、国道、県道等)約997km

各市町村(役場)から県都金沢(県庁)までの所要時間別のカバー人口を、参考指標として採用します。

各市町村(役場)から最寄り高速道路 IC までの1時間圏のカバー市町村数を、参 考指標として採用します。

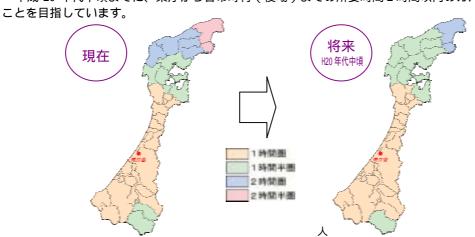
## 高速ネットワークの確保に向けた平成 15 年度の成果目標

高速ネットワーク確保率を H 14 年末の 70 . 4%から、H 15 年末には 72 . 7%へ、約 2 %増加させることを目指します。

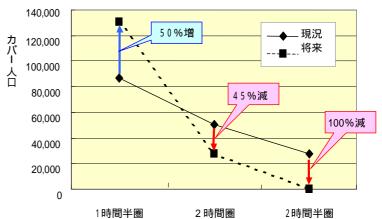
項目	H14末	H15 末計画	増	73.0 71.0	
高速ネットワーク確保率	70.4%	72.7%	2.3%	69.0	
(確保延長)	(702.3km)	(724.8km)	(22.5km)	67.0 65.0	
					H14末

### 各市町村(役場)から県都金沢(県庁)へのアクセス

平成 20 年代中頃までに、県庁から各市町村(役場)までの所要時間 2 時間以内のカバー人口を 100%とする



	カバ・	増減 増減		
	現在	将来	追测	
1時間圏	1,016,059人	1,022,668人	約0.6%増	
1時間半圏	86,862人	130,727人	約 50%増	
2 時間圏	50,474 人	27,582 人	約 45%減	
2 時間半圏	27,582人	0人	100%減	

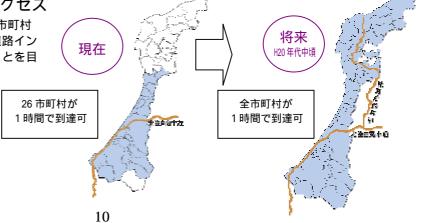


H15末計画

## 各市町村(役場)から

## 高規格幹線道路 IC へのアクセス

平成 20 年代中頃までに、すべての市町村 (役場)から、最寄りの高規格幹線道路イン ターチェンジへ 1 時間で到達できることを目 指しています。



# H 1 5 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	区間	延長	整備内容
国道8号金沢東部環状道路	梅田~月浦	2.1km	バイパス整備
国道 249 号大谷道路	若山工区	1.6km	バイパス整備
国道 304 号月浦バイパス	堅田町~不動寺町	1.1km	バイパス整備
珠洲道路((主)内浦柳田線)	中斉・神和住	2.1km	拡幅整備
南加賀道路((一)高塚粟津線)	小松市矢田野~馬場	1.5km	新設整備
能登中核工業団地線((主)志賀富来線)	志賀町赤住~富来町福浦港	1.8km	新設整備
(主)金沢井波線	角間~小二又	1.3km	バイパス整備

